

信濃川大河津資料館友の会だより

友の会展覧会

友の会会員の皆さんの作品を資料館2F 多目的ホールにて展示しています。作品からは信濃川や大河津分水への想いや気持ちが伝わってきます。ぜひご覧下さい！

期間：2月14日（土）～3月15日（日）

会場：大河津資料館 2F 多目的ホール



金井勲さんの作品
切り絵「可動堰」

講演会 「技師 青山士一万象二天意ヲ覚ル者八...」

日本人で唯一パナマ運河建設に従事し、可動堰建設の総責任者として可動堰完成に貢献した青山士。

青山士と大河津分水の関わりや大河津分水での秘話など、日本を代表する“土木技術者 青山士”について講師の高崎哲郎さんより講演いただきます。また、会場には青山士にまつわる資料を展示します。

写真：信濃川補修工事竣工記念碑



日時：3月7日（土）13：30～16：00

会場：大河津出張所（洗堰となり）

定員：60名

申込：友の会事務局までご連絡下さい。

※当日は青山士にまつわる書籍等を特別価格でご用意する予定です。この機会にぜひお求め下さい。

【高崎哲郎（たかさきてつろう）】

1948（昭和23）年栃木県生まれ。NHK記者、帝京大学教授、東京工業大学非常勤講師などを歴任。独立行政法人土木研究所と財団法人河川環境管理財団の客員研究員を経て、独立行政法人水資源機構の客員教授。作家、土木史研究家。

【主催】信濃川大河津資料館友の会 【後援】北陸地方整備局信濃川河川事務所、燕市、社団法人北陸建設弘済会

桜の下枝処理

大河津分水の完成を記念して植樹された大河津分水の桜は、現在大河津分水路堤防などで素晴らしい並木となっています。3月21日（土）には「NPO 法人分水さくらを守る会」の皆さんによる、桜の不要枝木の剪定が分水路右岸堤防（資料館～野中才）、分水駅周辺で行われます。

友の会会員の皆さんも一緒に参加してみませんか？

日時：3月21日（土）8：30～12：00頃

集合：信濃川大河津資料館前

申込：友の会事務局までご連絡下さい。



11月に行われた桜の下枝処理の様子

川の物語発表会

11月22日（土）川の物語発表会が行われました。歌や踊り、研究成果の発表、そして紙芝居などが披露され、会場には発表会を観覧するために多くの方が来場されました！



若葉会の皆さん
舞踊「祝杯」



原銑之助さん
発表「近郷伝説談義」



捧一二さん
紙芝居「良寛さま」



藤田正夫さん
発表「大河津分水と棟方志功」



中条吟詠会の皆さん
詩舞「愛の前立『直江兼続』」



五十嵐晃さん
発表「安川電機カレンダー」

友の会活動を考える会

12月13日（土）友の会活動を考える会を行いました。第1部の講演会では、新潟県立歴史博物館主任研究員の山本哲也さんより「地域に生きる博物館の望ましい姿」と題してお話いただきました。第2部のトークディスカッションでは、「バスツアーはどこへ行くのか」「信濃川源流へは辿り着けるのか」など、平成21年度の友の会講座について考えました。



新潟県立歴史博物館主任研究員
山本哲也さん

友の会役員会

1月10日（土）友の会役員会を行いました。役員会では平成20年度の活動報告や平成21年度の事業計画が話し合われました。

主な事業案

- | | |
|--------------|-------------|
| ◆お茶を楽しむ会と紙芝居 | ◆俳句を楽しむ会 |
| ◆五千石遺跡 | ◆日帰りバスツアー |
| ◆土木技術映画鑑賞会 | ◆サケまつり |
| ◆遠地探訪バスツアー | ◆信濃川源流ツアー |
| ◆双書発刊に伴う講演会 | ◆友の会発表会 |
| ◆新旧可動堰見学ツアー | ◆友の会活動を考える会 |

まだ案の段階で、予算やイベントなどを検討し決定します。詳細が決まり次第、友の会だよりなどでお知らせしますので、お楽しみに！

特別エッセイ

友の会会員の山田司羅雄さんより特別エッセイをいただきましたのでご紹介します。



賛歌、大河津分水双書（至宝大全）

友の会会員 山田 司羅雄

3月末、久しぶりに図書室内（大小、予測で2万冊前後の蔵書と音楽の我家の別棟である）の大整理を気の向くままに何気なく始めた。中越地震以来4回目の大整理中の出来事、超重版の貴重書籍を3冊（1冊は5kg内外=15kg）を持って移動中、床面の他の重版につまづき見事に転倒し、書架に腰を強打。一時は呼吸もやっと、声も出せず助けを求める手立てもなく3時間余りの苦しみ。離れ屋のため誰も発見してくれなかった。その時の待ち時間の長いこと皮肉である。やがては長岡の大病院へ担ぎ込まれ、即、絶対安静、2週間の病床。病歴の全くない私は生涯中の最大の悪夢を経験させられた次第。以降、約3ヶ月後、外見上は全く平静を保った様に資料館へも行き、回復？何食わぬ面持ちで今でも大変元気風に偽装していることは誰も知る由はない。

資料館ロビーのカウンター前の分水双書全巻が並列されている事に思いをよせ次回には全8巻を始めとして他の関連誌を14、5冊入手。以降随時おもむろに座右の銘としての各巻を交互に読み続けている昨今です。この頃にしてようやく双書の全体像が分かりつつ、人にも若干ながら話せる様になったつもりです。なお、1巻と7巻と信濃川の気象の3巻をセットとして近くの西東の公民館に上納いたし、分水の存在の意義を更に強調すべきに役立てばと人知れず未然の間にもと意を注いでいる心算です。

さて、改めて著作の先生の造詣の深さと苦節の8年余りの凄烈な意志の固さと執筆の根気の維持には心より威服の他はありません。幾多の障壁にも遮られた事だって再三直面された事と察します。私も24、5年以前に史誌を刊行した思い出の記憶がありますが、まずは資料の収集、レイアウト及び校正等々筆舌には表しきれぬものではありません。私の場合はスタッフの方々には東奔西走、幾度かの挫折のもとに3年余りの時間を要し、どうやら1200部を刊行しました。ただちに国立国会図書館へまず納入を始め、村中350軒（県外在住者を含め）700冊を長岡圏内の公私立図書館、公民館、各公会堂、集会場等々を巡回配品に500冊の心労、足労の苦渋の記憶があり、この度の五百川先生の大英断に心より再度敬服申し上げたいと存じ上げ、何れは賛詞散文ながら投稿してはと、以前より心のうちに秘めて来た次第です。

終章に際して再三のせんえつを感じつつここに何ら具体性なく唯々断片的ながら又、柄でもなく臨時寄稿の出来たことを好機と存じ上げる次第です。会員各位のご健勝を祈念しながら。

大河津分水への思いや資料館への意見、感想など「この想いを伝えたい！」という方は友の会事務局までご連絡下さい。お待ちしております！



今号の可動堰

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点撮影を紹介します。

現在施工中の堰柱3基は冬場の厳しい気象状況の中でも工事が出来るように白いシートの仮囲いに覆われています。中では鉄筋の加工や組立て、コンクリートの打設が行われています。桜の咲くころには囲いも外され、高さ約14mの堰柱が見えるようになる予定です。



右岸堰軸から撮影
(平成21年2月6日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影
(平成21年2月6日撮影)



桜に寄せる望郷の念

友の会会員 吉田 幸策

明治 29 年の横田切れを機に大河津分水建設の事業が始まり、その完成記念に大河津分水路の桜並木は植樹されたもので、大正 13 年の保勝会設立をはじめとして観光協会、現在の NPO (特定非営利活動法人) の前身である。『さくらを守る会』の変遷を経て管理体制がされて来ている。

平成 17 年に立ち上げた『NPO さくらを守る会』の事業は桜下枝伐採、ツタ除草剤散布、テングス病剪定などのほか、採集したサクランボの発芽に成功したことから民間より畑を借用し、約 1000 本の育木もしている。全て会員、市民のボランティアで運営がされ、600 本近くが植樹もされている。

毎年 6 月に東京で分水出身者の集いが開催され「さくら基金」のご寄贈を戴いているが、それとは別に浄財で右岸堤防に植栽がされたことがあり、プレートの下げられた桜が 30 本程ある。その折に関係お二人の桜木写真を届けたところ、葉桜にもかかわらず本当に我が子の顔を見られるように凝視されていたのが印象的でした。その後わざわざ桜を見に来られたことが分かり、不在でお会い出来ずにいた私に、帰京されてからの電話で本当に恐縮してしまいました。

私達には見慣れた風景ではありますが、故郷を離れられた人達にとって分水の桜は決して消えることのないものであり、桜に対する思いは一入なのだと思えて知ることが出来ました。

※3月21日(土)に『NPO 法人分水さくらを守る会』の桜の下枝処理が行われます。詳しくは 1 ページをご覧ください。



信濃川と分水の桜の思い出

友の会会員 松井 光子

川との思い出。それは懐かしく、鮮明によみがえる事が多くあります。

まず 1 つは、震える手をしっかり握り、暗くなった土手をドキドキ心配しながら歩いた事です。理由は、7 つ年上の兄が中学生の頃、川蟹の筒を仕掛けに向い、戻らないとの状況に家族、近所、大勢が捜す大事になってしまったのです。現在と違い電話、携帯、車も皆無。50 余年も前の事。もしかして、兄と仲間は川に流されたのではとの心配。足はがくがく、寒くて震えながら良からぬ考えをしました。幸い無事見つかり、何とも切ない心と逆に安堵の気持ちは昨日の出来事の様です。

もう 1 つは、私自身小学生の時、恒例の分水公園土手の桜見遠足です。全校参加、延々と続く桜のトンネルの見事さ、桜の下で母の素朴な手作り弁当、どの顔も満足で、いじめや引きこもりの言葉も無縁。心豊かな幸せに心満たされ、桜の甘い香りも鮮やかです。

私達は、信濃川は日本一の川と学び、祖先代々田畑を潤し生活を育てて来た原点。多くの恩恵をいただき、その川の間近に居られる事を誇りに思い、分水可動堰の歴史の重さ、先人に深い感謝の心で橋を渡り、暮らしたいと存じます。

次のご指名は高橋貢治さんと田中隆夫さんです。